

第72回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：平成31年4月23日（火）

午後7時～午後9時10分

会 場：城山公民館大会議室

出席者：17名（欠席6名）

傍聴者：7名

1 開 会

2 自己紹介

3 議 題

（1）城山地区まちづくり会議について

今回、5名の選出委員の変更に伴い、改めてまちづくり会議設置の背景や役割について、事務局から説明を受けた。

（2）役員（代表）の選出について

城山地区まちづくり会議会則第6条及び第8条の規定に基づき、次のとおり選出した。

代 表 大参 正人（城山地区自治会連合会）

（3）区民会議委員について

事務局から区民会議の概要説明を受けた後、次のとおり推薦することを確認した。

相模原市緑区区民会議委員 代表 大参 正人

（4）平成31年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

最初に、事務局から平成31年度相模原市地域活性化事業交付金制度の概要等について説明を受けた。

続いて、申請事業ごとに申請者から事業概要の説明を受け、質疑応答の後、当該事業に対するまちづくり会議としての意見を取りまとめた。

（ 委員の意見・質問， 申請者の回答 ）

事業名：「城山地区で本物に触れよう」

団体名：城山地区青少年健全育成協議会

《主な意見・質問・回答》

昨年は他の事業と重なり参加者が少なかったため、開催日については良く検討をしてほしい。

一流の演者を招くため、スケジュールが一杯で、こちらからの日時の指定は難しい状況。

4年目以降の自主財源のめどはあるのか。

子どもたちからは費用を取れないので、大人からワンコイン程度の負担を求めることを考えているが、基本的には無料で行うことが望ましいと考える。他の地区では、自治会等他団体から助成があるが城山地区ではないため、4年目以降も交付金を活用し事業を継続したい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・オーケストラ・伝統芸能以外の事業展開も検討してください。
- ・4年目以降の自主財源についても検討してください。
- ・子どもたちがより多く参加できる工夫をしてください。

事業名：第2回城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ

団体名：城山湖ヒルクライムアタック実行委員会

《主な意見・質問・回答》

○発電機、音響設備をレンタルではなく、購入なのはなぜか。

昨年実施した結果を踏まえ、今後、自主財源で継続的に事業を実施するためには、レンタルではなく購入したほうが事業の安定に繋がるため。

今年実施するにあたり、スタート地点、ゴール地点以外にコースで走っているところを観ることが出来る場所はあるのか。

今後の実行委員会で検討をするつもりではあるが、警備等のボランティアを増やす必要がある。地域の多くの方に協力をしていただければと思っている。

参加資格年齢、募集地域、参加見込数について確認したい。

参加資格年齢は18歳以上、募集地域は日本全国、参加見込人数は100人から120人を想定している。

城山地区を代表する事業、地域をあげて応援できるような事業となるには、今後の自主財源での運営が必要であるが、その考え方について確認したい。市内でロードバイクのイベントは唯一、県内でも2つしかない状況で、城山地区がオリンピックの自転車競技のコースとなるのは、城山地区のアピ

ールポイントとなる。オリンピックのレガシーイベントとして実施をしていきたい。4年目以降は、参加者を増やし、その負担金で自主運営をしていきたい。

安全面に配慮して実施してほしい。

事業を実施することは良いことであるが、その後練習コースとなり住宅街の中まで入ってくると近隣住民は困惑する。

ご迷惑とならないよう実施をしたい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・ スタート地点、ゴール地点だけでなく、コースを走っているところを観ることができるような工夫を図ってください。
- ・ 4年目以降の自主財源を含めた自立への努力をしてください。
- ・ 事業実施にあたっては、安全対策には十分に配慮をしてください。
- ・ 地区を代表するような事業となるよう PR の強化、協力者を募る等を検討してください。
- ・ 発電機の購入については、事業の安定的実施を勘案し自治会からの借用も検討してください。

事業名：多世代が安心して幸せに暮らせるまちづくり「若葉台住宅の魅力づくりと情報発信事業」

団体名：若葉台住宅を考える会

《主な意見・質問・回答》

子どもサバイバルイベントは、若葉台のみの子どもを対象としているのか。初めての試みのため、初回は若葉台の子ども会等を対象として試験的に行い、将来的には城山地区全体の子どもたちを対象としていきたい。

○昨年もドローン撮影を行ったが今年度も実施するのか。

さらにホームページの更新をしていくため実施する。

今後の自主財源の確保はどのように考えているのか。

現在は、寄付金、朝市・サロンの収入、会費を団体負担としているが、今後は、空き家の管理をコミュニティービジネスとしていきたい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・ 4年目以降、事業継続できるように自主財源の確保も検討してください。
- ・ 不動産業者等の関係団体と連携し情報の発信を行ってください。
- ・ 空き家となった原因について、究明し事業計画に反映させてください。
- ・ 地域一体となった取り組みとなるよう自治会と連携を図ってください。
- ・ 子どもサバイバルイベントを実施する際には、教育・子育てに繋がるよう

事業計画を立ててください。

(5) その他

次回のまちづくり会議は、令和元年5月28日(火)午後7時から城山公民館大会議室で開催することを確認した。

4 閉 会 八木副代表

以 上